

# エコノミー症候群を 予防しよう

横浜市瀬谷区

## 足の静脈エコー検査を実施

横浜市瀬谷区は15日、新潟大学大学院  
医歯学総合研究科呼吸循環外科科学分野  
(第二外科)講師の橋沢和彦医師を招き、

エコノミークラス症候群(肺血栓塞栓症)  
の原因となる深部静脈血栓症の早期発見  
や予防のため、足のふくらはぎの静脈エ

コー検査を実施。検査データを基に診断  
した橋沢医師が参加者一人一人に効果的  
な予防法などをアドバイスした。

長時間同じ姿勢で座っ  
ていると血行が悪くな  
り、ふくらはぎや膝の裏  
にある静脈に血の塊(血  
栓)ができる(深部静脈  
血栓症)。その血栓が流  
れて肺の血管で詰まると  
息が苦しくなったり、胸  
が痛くなったりするだけ  
でなく、最悪の場合は死

に至るのがエコノミーク  
ラス症候群だ。  
2004年に起きた新

潟県中越地震では、乗用  
車に寝泊まりしていた避  
難生活者が発症したり、

新潟県中越地震や東日  
本大震災などの被災地で  
長年、エコノミークラス  
症候群の調査に携わって  
きた橋沢医師は、「いざ  
というときに備え、普段  
から発症を予防する取り

## 被災地調べた医師が 血栓防ぐ方法広める

東日本大震災では避難所  
や仮設住宅に避難を余儀  
なくされていた被災者に  
深部静脈血栓症が数多く  
見つかった。

発症後は血液の凝固を  
防ぐ薬の内服や、重症の  
場合は注射薬の投与、手  
術などが必要になるが、  
医薬品の不足や病院の機  
能不全などに見舞われる  
大規模地震の被災地で  
は、思うように治療でき  
ないことも珍しくない。

組みが重要になる」と指  
摘。このため、避難所に  
おける健康被害の予防や  
症状の改善に役立つ段ボ  
ール製簡易ベッドの普及  
に力を注ぐ一方、各地で  
広く一般市民に早期発見  
のための検査を含めた予  
防法を周知、啓発する活  
動に取り組んでいる。

横浜市瀬谷区で行われ  
た今回の検査は、公明党  
の加納重雄市議が橋沢医  
師と同区との橋渡し役を  
担い実現。その上で、多  
くの市民に検査を受ける  
よう呼び掛けるなど、命  
と健康を守る活動に協力  
してきた。

## 公明市議の橋渡しして実現



静脈エコー検査を受け  
る市民に声を掛ける加  
納市議(左から2人目)



検査結果を見ながら診断する橋沢医師

## 効果大きい弾性ストッキングの着用

会場となった区福祉保  
健センターでは、血圧や  
血中酸素濃度を測定した  
後、足のふくらはぎの静  
脈エコー検査を実施。検  
査後の問診では、橋沢医  
師がこまめな水分補給や  
運動など有効な予防法を  
伝えるとともに、足の血  
流を良くする弾性ストッ  
キングを全員に手渡し、  
着用を勧めた。

この日、検査を受けた  
100人のうち、血栓が  
見つかったのは6人。橋  
沢医師は「深部静脈血栓  
症の7割は自覚症状がな  
い。弾性ストッキングを  
日常的に着用するだけで  
も血栓を解消したり、予  
防する効果は大きい」と  
話す。

区では希望者が大勢に  
上ったことから、来年2  
月に再び検査を行う考え  
だ。